

# 日本政治学会 会報

The JPSA News

No.62

DEC.2011

## 危機の中の政治学

理事長 杉田 敦

今年も暮れようとしています、2011年は私たちにとって忘れることのできない年となりました。3.11の大災害に原発事故が重なり、混乱と不安の中で暮らすことを余儀なくされたからです。

3.11で世界が変わったという言い方もできますが、むしろ3.11は、それ以前から社会にひそんでいたさまざまな矛盾を明るみに出したと見るべきではないでしょうか。ちょうど10年前の9.11がそうであったように。

災害・事故が直撃したのは、過疎化や少子・高齢化、地域経済の疲弊や自治体財政の逼迫といった諸問題が、最も先鋭に表れている場所でした。また、この国のエネルギー政策が、地域間格差の上に成り立つもろいものであったことを、私たちは直視させられています。復旧・復興対策が進められる中で、官僚制や第三者委員会など、ガバナンスのあり方全般が問われていますし、政党政治の混乱が、復旧・復興を妨げかねないほど深刻化するのを私たちは目撃しました。専門家の権威や学問の客観性も疑われています。

本学会の研究大会も災害・事故の余波で会場の変更を迫られましたが、会場校の岡山大学と地元・岡山県等のご尽力で、3.11関連の国際シンポジウムまで開催することができたのは大きな収穫でした。大会での個別の研究報告の中にも、諸課題について考察するための多くの手がかりがちりばめられていたと思います。

ところで、私たちが転機に差しかかっていることを示すのは、3.11をめぐる状況だけではありません。目を世界に転じれば、イスラム圏では長期独裁政権が次々に倒され、深まる経済危機の中

で、欧米を中心に、格差拡大に抗議する人びとが街頭に出ています。ウィキリークスは政府による情報管理の限界を明らかにしましたし、アメリカでのティーパーティーの活動など、既存の政治エリートへの批判が渦巻いています。日本でも、首相を次々に引きずり下ろすのが最大の政治課題であるかのような状況が続き、従来の議会や政党を単なる既得権益として非難する政治勢力が、各地で大きな支持を得つつあります。

第二次大戦後の方向性喪失を背景に発足した本学会は、会員個人の研究の自主性を何より尊重しつつも、日本の民主政治を成熟したものにしたいという問題意識を広く共有してきました。近年では、政権交代のある民主政治実現との関係で、選挙制度や政党政治の研究が大きく発展してきました。もちろん、こうした方向での模索は今後も続くこととなりますが、同時に、激しく変転する世界を視野に、政治研究はさらなる展開を求められています。政治が自明性を失い、政治そのものの否定にさえつながりかねない現在、政治をどう再定義するかが問われているのです。

今日、日本の政治学研究はますます盛んとなり、選挙研究、政治思想、比較政治、行政学、国際政治など、専門毎に学問的な蓄積が進んでいます。そうした中、多様なアプローチをとる研究者の対話の場を確保することが改めて必要となっており、政治学者全体のフォーラムとしての本学会の役割も大きいと考えています。本学会と政治学界の一層の発展のため、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 2012年度研究大会企画公募のお知らせ

2012年度企画委員長 押 村 高

標記研究会につき、以下の要領で分科会の企画と参加者（登壇者）を募集します。

### 1. 公募の種類

#### (1) 自由論題

任意のテーマ（ただし政治学に関するもの）で、個人の報告を募集します。企画委員会が複数の報告を組み合わせ、司会・討論者を選定してセッションの形にアレンジします。

#### (2) 公募企画

任意のテーマ（ただし政治学に関するもの）で、司会者・報告者（2～3名）・討論者（1～2名）がセットとなった分科会の企画を募集します。

#### (3) 公募セッション

次の2つのテーマ（もしくはそれらに関連するもの）に関して、報告者を募集します。

- a エネルギー政策と政治
- b 社会運動におけるソーシャル・メディアの役割

#### (4) 政治学のフロンティア

任意のテーマ（ただし政治学に関するもの）で、ポスター形式による発表者を募集します。

なお採否は、企画委員会が合議によって決定します。2012年度の研究大会も開催が2日間となるため、開設分科会の総数に上限が設定され、応募者の提案や希望に添えない場合が出てくる可能性もあります。また、企画委員会の判断で、希望したものは別の分科会やカテゴリーに移っていただく場合もあります。これらの点を、ご承知おきください。

### 2. 応募にあたっての留意事項

#### (1) 登壇数の制限について

会員は、2012年度の研究大会において、司会・報告・討論をそれぞれ1回、合計3回まで登壇可能です。ただし、企画委員会が特別に認める場合は、この限りではありません。

#### (2) 登壇者の会員資格について

応募は、会員によるものであることを原則とします。非会員の場合、2012年度研究大会までに会員となる必要があります。また、連名による応募の場合、「主たる応募者」は会員でなければなりません。ただし、企画委員会が特別に認める場合は、この限りではありません。

#### (3) 報告要旨・報告原稿の提出について

報告者は、報告要旨・報告原稿の提出が義務づけられます。提出方法の詳細については、採用決定後にお知らせします。

### 3. 応募の手続き

応募者は、①種別、②氏名と所属（公募企画の場合には、構成員全員について）、③テーマ、④報告概要（600字程度で、ただし公募企画の場合には、企画趣旨と各報告概要について1,000字程度で）、⑤連絡先（公募企画の場合には代表者連絡先）、以上をA4×1枚のワード（またはテキスト）ファイルにまとめ、2012年1月15日から31日の間に下記アドレス宛にお送りください。メールの件名には必ず「政治学会公募」とお書きください。応募者には、2月下旬以降に採否の結果をお知らせする予定です。

送付先・問合せ先：企画委員長 押村 高

toshimur@sipeb.aoyama.ac.jp

## 「分野別研究会」公募のお知らせ

研究交流委員会委員長 西川 伸一

研究交流委員会が設置され、2007年度より①会員各位からの「分野別研究会」の設置申請の受付と、②設置が承認された「分野別研究会」からの研究大会における分科会設置申請の受付を行っています。現在では13の「分野別研究会」が存在し、活発な活動がなされています。

今回も新規の「分野別研究会」を募集いたします。以下の要件を満たす「分野別研究会」の設置を希望する会員の方は、別記の要領に従って「分野別研究会の設置申請」を行って下さい。締め切り後可及的速やかに、研究交流委員会の議を経た上でその採否を申請者宛にご連絡します。

### 1. 分野別研究会の要件

- 1) 政治学の分野に属する特定のテーマを掲げ、その研究を目的とする組織であること
- 2) 構成員が8名以上おり、その6名以上が日本政治学会会員であること
- 3) 研究会の責任者（代表者）は、日本政治学会会員であること
- 付) 各政治学会会員が所属する「分野別研究会」は3つまでとします

### 2. 分野別研究会の設置申請手続き

「分野別研究会」の設置を希望する会員は、以下の諸点について明記した「設置申請書」を、下記の宛先まで、メールの添付ファイルの形式でお送り下さい。今回の募集締め切りは、2012年1月7日（必着）とさせていただきます。なお、申請書の書式は自由です。

- 1) 分野別研究会の名称
- 2) 分野別研究会の研究テーマと、今後2年間の活動計画及び最近の活動実績
- 3) 分野別研究会の責任者と構成員（日本政治学会会員についてはその旨を明記）

申請書宛先：研究交流委員会委員長 西川伸一  
(nisikawa1116@gmail.com)

今回の申請で日本政治学会の「分野別研究会」として承認された場合には、2012年10月に九州大学で開催される予定の研究大会での分科会設置申請が認められます。その申請の締め切りは、2012年1月31日（必着）とさせていただきます。ただし分野別研究会としての活動は、理事会の定めた「分野別研究会規約」に則って頂く必要があります。この点については、今回の募集で設置が認められた「分野別研究会」の責任者宛に、別途書類をお送りします。

なお、既に設置が認められている「分野別研究会」も、この「分科会設置申請」を行うことができます。ただし、「分科会設置」に関しては研究交流委員会が審査を行い、かつ最終的には企画委員会との協議の上で決定することとなりますので、すべての申請が認められるわけではありません。この点をあらかじめご了承下さい。

分野別研究会ならびに研究大会分科会企画について、ご質問のある方は下記までご連絡下さい。

研究交流委員会委員長 西川伸一  
(nisikawa1116@gmail.com)

## 『年報政治学』独立論文公募のお知らせ

査読委員会委員長 遠藤 乾

『年報政治学』では論文を公募しています。公募論文は、「特集」テーマに関連した「特集論文」と、特定のテーマにとらわれない「独立論文」の2種類に区分されます。「独立論文」は、特定の締切り期日を設けず受け付けています。ただし編集の都合上、2012年度第Ⅱ号（2012年12月刊行予定）に掲載を希望される会員は、2012年3月31日（消印有効）までに下記の送付先に原稿をご提出ください。

公募論文には査読による審査が行われます。審査を公正かつ迅速に行うため、正副委員長のほ

か5名の委員からなる査読委員会が設けられています。査読委員会は、会員の中から査読者を選び、査読結果にもとづいて掲載論文を確定いたします。論文の投稿に関してくわしくは、日本政治学会ホームページに掲載されている「論文投稿規程」および「査読委員会規程」をご覧ください。

なお、前回残念なことに二重投稿の例が見られました。これは規定により禁止されていることを申し添えます。ルールを守った上で、ぜひ奮って投稿ください。

### \* 原稿送付先：

〒060-0809

札幌市北区北9条西7丁目北海道大学法学部 遠藤乾研究室内 日本政治学会査読委員会

電子メール：sadoku@juris.hokudai.ac.jp

### \* 投稿規程

独立論文・特集論文ともに学会ホームページ (<http://www.jpssa-web.org/toukou.html>) に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて上記へ送付して下さい。投稿規程により、未発表でない論文、論文の分量（注、参考文献、図表を含め原則20,000字以内）を超過している論文、また応募時点の年度の会費を納入済みでない会員の論文は受理できませんので、投稿前に必ず規程をご確認ください。分量の計算については、<http://www.jpssa-web.org/bunnryou.html> を併せてご参照ください。

## 『年報政治学』2012年度第Ⅱ号特集論文公募のお知らせ

2012年度第Ⅱ号年報委員長 辻中 豊  
査読委員会委員長 遠藤 乾

2012年度第Ⅱ号（2012年12月刊行予定）のテーマを、「現代日本の団体政治」といたしました。政治過程の重要なアクターであるとされながら、研究蓄積が必ずしも十分ではない利益団体・圧力団体・市民社会組織に焦点を当て、理論的・実証的な議論を展開したいと思います。テーマ設定にあたって念頭にあるのは、今から50年前、1960年の政治学会年報の特集「日本の圧力団体」です。政治過程論のみならず、比較政治学・政治史・政治理論など多様なアプローチを動員し、「日本の

圧力団体」の現代版を目指します。そこで、このテーマに関連する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募りたいと思います。多くの方々からのすぐれた論考を期待します。原稿の締切は2012年3月31日（消印有効）とします。

投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.jpasa-web.org/>）に掲載されている投稿規程に則り、メールおよび郵送にて、査読委員会宛にご送付下さい。

## 『年報政治学』2013年度第Ⅰ号特集論文公募のお知らせ

2013年度第Ⅰ号年報委員長 齋藤 純一  
査読委員会委員長 遠藤 乾

2013年度第Ⅰ号（2013年6月刊行予定）のテーマを「現代社会における宗教と政治（仮）」としました。ご存じのように、宗教に基づく（それをめぐる）言説や行動は、現代政治の重要なファクターになっています。グローバル化が進むなか、宗教的価値観は、私的領域にとどまることなく、公的領域において、人々の政治的行動を喚起し、それを動員する機能を現に果たしていますし、宗教に関わる問題についてあらためて意思決定を行うことも避けられなくなってきました。このような状況は、「世俗化」、「政教分離」、「社会統合」など宗教と政治をめぐる基本的諸論点を問い直す

とともに、宗教を公的領域のなかにどのように位置づけるかについて再検討することを私たちに求めているように思われます。

そこで、このテーマに関連する研究論文の投稿を広く日本政治学会会員から募ります。多くの皆様から優れたご論考をお寄せいただくことを期待しております。原稿の締め切りは2012年10月30日（消印有効）とします。投稿原稿は学会ホームページ（<http://www.jpasa-web.org/>）に掲載されている投稿規則に則り、メールおよび郵送にて査読委員会宛にご送付ください。

## 研究業績自己申告のお願い

今年も例年のように、次の要領で会員の皆様の研究業績を『年報政治学』に「学界展望」として掲載します。同封の用紙を用いて、主な業績の自己申告をお願いします。その際に各業績の〈専門分野〉を指定して下さい。〈専門分野〉は業績自己申告書の下欄に記載されています。なお、紙幅の関係で自己申告された業績のすべてを掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

- 1 申告対象機関：2011年1月1日～2011年12月31日に刊行された業績。  
できる限り、図書・抜刷りまたはコピーを同封して下さい。ただし、同封された図書・抜き刷り・コピーなどはお返しできませんので、ご了承ください。

2012年文献委員長 酒井 正文

- 2 申告業績本数：主要なもの1、2本
- 3 専門分野：業績自己申告書に記載されている〈専門分野〉の番号を記入して下さい。
- 4 締め切り：2012年1月31日（火）（消印有効）
- 5 送り先：〒347-8504

埼玉県加須市水深大立野2000

平成国際大学法学部 酒井正文研究室 気付

日本政治学会文献委員会

**（送り先は学会事務局で**

**はありませんので、ご注**

**意下さい。予算の関係で**

**封筒・切手などは各自で**

**負担をお願いします）**

- 6 問い合わせ先：平成国際大学法学部

酒井研究室

TEL：0480-66-2100

FAX：0480-65-2101

E-mail：sakai@hiu.ac.jp

## 理事選挙の結果等について

本年6月実施の第17回理事選挙の結果等は、以下のとおりです。

### 1. 投票結果

有権者総数	1,703
投票（封筒）数	415
投票率	24.4%
有効投票（用紙）数	399

### 2. 開票結果および次期公選理事の選出

開票の結果、上位20位以内の得票者のうち、理事就任を受託した以下の22名が、次期公選理事に選出されました（五十音順・敬称略）。

飯島昇藏（早稲田大学）・池谷知明（拓殖大学）・大西裕（神戸大学）・小川有美（立教大学）・小河原正道（慶応義塾大学）・押村高（青山学院大学）・苅部直（東京大学）・河野武司（慶応義塾大学）・小西徳應（明治大学）・齋藤純一（早稲田大学）・酒井正文（平成国際大学）・信夫隆司（日本大学）・白鳥浩（法政大学）・城山英明（東京大学）・田中愛治（早稲田大学）・辻中豊（筑波大学）・中村孝

文（武蔵野大学）・名取良太（関西大学）・西川伸一（明治大学）・西澤由隆（同志社大学）・真淵勝（京都大学）・吉野篤（日本大学）

### 3. 次期選考理事の選出

8月28日開催の理事選考委員会において、日本政治学会理事・監事選出規程8条2項にしたがい、次期選考理事に選考された15名のうち、理事就任を受託した14名と、10月8日開催の理事選考委員会において、次期選考理事に選考され、理事承認を受託した1名の計15名が次期選考理事に選出されました（五十音順・敬称略）。

遠藤乾（北海道大学）・遠藤誠治（成蹊大学）・大津留智恵子（関西大学）・河村和徳（東北大学）・瀨瀬厚（山口大学）・佐藤克廣（北海学園大学）・佐藤学（沖縄国際大学）・谷口尚子（東京工業大学）・戸田真紀子（京都女子大学）・中野勝郎（法政大学）・楯原真二（北九州大学）・羽場久美子（青山学院大学）・増田知子（名古屋大学）・三船毅（愛知学泉大学）・山田央子（青山学院大学）

## 2011年度日本政治学会第2回理事会議事録

日時：2011年10月8日（土）12時30分～13時30分  
場所：岡山大学 文学部・法学部・経済学部2号館  
法学部会議室

第2回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

### 〈報告事項〉

#### 1. 次期理事長・次期理事の選出結果の報告

杉田理事長より、第17回理事選挙の結果、以下の各氏が公選理事に選出されたことが報告された。飯島昇藏（早稲田大学）・池谷知明（拓殖大学）・大西裕（神戸大学）・小川有美（立教大学）・小川原正道（慶応大学）・押村高（青山学院大学）・苅部直（東京大学）・河野武司（慶応大学）・小西徳應（明治大学）・齋藤純一（早稲田大学）・酒井正文（平成国際大学）・信夫隆司（日本大学）・白鳥浩（法政大学）・城山英明（東京大学）・田中愛治（早稲田大学）・辻中豊（筑波大学）・中村孝文（武蔵野大学）・名取良太（関西大学）・西川伸一（明治大学）・西澤由隆（同志社大学）・真淵勝（京都大学）・吉野篤（日本大学）（配付資料参照）。また理事選考委員会において、以下の各氏が選考理事に選出されたことが報告された。遠藤乾（北海道大学）・遠藤誠治（成蹊大学）・大津留智恵子（関西大学）・河村和徳（東北大学）・瀧澤厚（山口大学）・佐藤克廣（北海学園大学）・佐藤学（沖縄国際大学）・谷口尚子（東京工業大学）・戸田真紀子（京都女子大学）・中野勝郎（法政大学）・植原真二（北九州大学）・羽場久美子（青山学院大学）・増田知子（名古屋大学）・三船毅（愛知学泉大学）・山田央子（青山学院大学）（配付資料参照）。

ついで2011年10月8日12時より開催された第1回次期理事会において、真淵勝次期理事が次期理事長候補者に選出されたことが報告された。

### 〈審議事項〉

#### 1. 理事の退任と補充について

杉田理事長より、本年3月の震災の影響により、当面、総会・研究大会を千葉大学で開催する

ことが困難となったため、退任の意向を表明した石田理事（千葉大学）の退任を認め、その後任としては、鏑木政彦会員（九州大学）を2012年度開催校理事として選任することが提案される。石田理事より退任の挨拶がなされた後、本提案が可決された。鏑木新理事より就任の挨拶がなされた。

#### 2. 監事の選任について

杉田理事長より、本年10月で任期が終了する川人監事の後任に、西崎文子会員を選任することが提案され、審議の上、提案通り可決された。

#### 3. 2012年度以降の総会・研究大会の準備状況について

杉田理事長より、2012年総会・研究大会は九州大学（福岡市）で開く予定であることが報告された。鏑木理事より、開催日は2012年10月6日から7日とすること、九州大学伊都キャンパスに会場を確保したことが報告された。関連して杉田理事長より、2013年度総会・研究大会については北海学園大学（札幌市）で開催の予定であること、日程については9月開催も選択肢とすることが報告された。さらに2014年度については早稲田大学（東京都）で開催予定であることが報告された。

#### 4. 2011年度総会・研究大会について

谷開催校担当理事より挨拶がなされ、現在、研究大会が順調に進行していることが報告された。

#### 5. 各種委員会報告

##### ① 2011年度企画委員会

信夫委員長より、(i) 本日10時より分科会がはじまり順調に進行していること、今大会は2日間開催で分科会が30、共通論題1、報告件数約90であること、(ii) 午前の研究交流委員会の分科会で非会員による報告論文未提出が1件あったこと、同報告者に、未提出のため公式記録には報告者として残らないことを了承していただいたことが報告された。(iii) 研究大会分科会報告について、もともと単独で応募され、企画委員会の審議



を経て、採択されたにもかかわらず、報告論文が共著となっている案件が発生したことが報告され、同案件については、共著として認定しないと提案がなされ、了承された。

## ② 2012年度企画委員会

押村委員長（中野常務理事代読）より、(i)以下の各氏を委員に選出したことが報告された。磯崎典世（学習院大学、アジア政治）・小川有美（立教大学、比較政治・ヨーロッパ政治）・押村高（委員長・青山学院大学、政治思想、国際関係）・金井利之（東京大学、行政学、自治行政）・空井護（北海道大学、政党政治、選挙政治）・中山俊宏（青山学院大学、国際政治、アメリカ政治）、奈良岡聰智（京都大学、日本政治史）・野口雅弘（立命館大学、政治理論、政治学方法論）、山田央子（青山学院大学、日本政治思想史）。以上に加えて開催校より1名が委員会に加わる予定。第1回会合は、2011年10月9日開催予定。(ii)企画の立案については、基本的に2011年度の方式を踏襲する予定であること。

## ③ 年報2011-Ⅱ編集委員会

品田委員長（中野常務理事代読）より、年報2011-Ⅱ号は、「政権交代期の選挙区政治」と題して、この夏、無事に特集の原稿が揃ったこと、とくに最終局面で編集委員の大西会員と木鐸社の坂口氏のお世話になったこと、現在、査読（独立）や他の原稿と併せ、出版社で作業していることが報告された。

## ④ 年報2012-Ⅰ編集委員会

真淵委員長より、特集は「自民党と政権交代」（仮）と題して、8月合宿をおこない進行状況を確認したことが報告された。

## ⑤ 年報2012-Ⅱ編集委員会

辻中委員長より、特集は「日本の団体政治」と題して、来年3月を締め切りに公募論文を受けつけていること、8月に合宿をおこない進行状況、企画について議論したこと、着実に進行していることが報告された。

## ⑥ 年報2013-Ⅰ編集委員会

齋藤委員長より、特集は「政治と宗教」（仮）と題して、暫定的ではあるが委員が確定しつつあることが報告された。

## ⑦ 年報2013-Ⅱ編集委員会

遠藤誠治委員長より、特集は「ポスト・クライシスの政治変動」（仮）と題して、委員を確定する作業をすすめていることが報告された。

## ⑧ 2011年文献委員会（2011-Ⅱ号掲載分）

河野委員長より、2010年度学界展望の原稿を木鐸社に提出し、現在、予定どおり、出版社で初校を組んでいる段階であることが報告された。つづいて、委員会運営費について、委員会によっては、前期と後期の経費が大きく異なる場合があるので、前期と後期それぞれ均等に執行するのではなく、総額を変えずに、不均等な執行も可とするよう、検討することが提案される。審議の後、委員長と事務局とのあいだで協議しながら、各委員会の実状に応じて執行していくことが確認された。

## ⑨ 2012年文献委員会（2012-Ⅱ号掲載分）

酒井委員長より、以下の各氏を委員に選出したことが報告された。岩崎正洋（日本大学、政治学・政治理論）・増山幹高（政策研究大学院大学、日本政治・政治過程）・大杉覚（首都大学東京、行政学・地方自治）・安西敏三（甲南大学、政治思想、アジア・日本）、大沢麦（首都大学東京、政治思想〔欧米〕）、奥健太郎（東海大学、政治史〔日本〕）・小久保康之（東洋英和女学院大学、政治史・比較政治〔西欧・北欧〕）・川上高司（拓殖大学、政治史・比較政治〔北米〕）・舟木律子（中央大学、政治史・比較政治〔中南米〕）・宮脇昇（立命館大学、政治史・比較政治〔ロシア・東欧〕）・川島真（東京大学、政治史・比較政治〔アジア〕）・矢澤達宏（上智大学、政治史・比較政治〔アフリカ〕）・坪内淳（山梨大学、国際政治・外交）（配付資料参照）。

## ⑩ 2012年書評委員会（2012-Ⅰ号掲載分）

大西委員長より、予定通り進行中であり、本理事会終了後に委員会が開催されることが報告され

た。

## ⑪ 査読委員会

遠藤乾委員長より、2011-Ⅱ号は、独立論文に3本の応募があり、1本が掲載許可となったこと、2012-I号は、締め切りが10月末なのでまだ数が確定していないことが報告された。応募数を上げるために、各理事より応募を呼びかけていただくこと、総会等で応募を呼びかけることが確認された。また応募数が少ないのは、構造的な問題によるものなのか検討する必要性も提起される。

## ⑫ 研究交流委員会

西川委員長より、6月4日開催の前回理事会以降、分野別研究会の責任者に以下の異動があったことが報告された。現代政治過程研究フォーラム：前責任者・谷口将紀、新責任者・河野武司。現代政治学研究会：前責任者・岩崎正洋、新責任者・荒井祐介。市民社会民主主義研究会：前責任者・小川有美、新責任者・山口二郎。戦前戦後・比較政治史研究フォーラム：前責任者・苅部直、新責任者・五百旗頭薫。地域ガバナンス研究会：前責任者・新川達郎、新責任者・今川晃。東アジア国際関係史研究会：前責任者・木宮正史、新責任者・浅野豊美。日本政治過程研究会：前責任者・河野武司、新責任者・小林良彰。臨床政治学会：前責任者・藤本一美、新責任者・浅野一弘。新責任者の任期はいずれも2011年7月から2013年6月までである（配布資料参照）。

## ⑬ 国際交流委員会

小川委員長より、(i) アメリカ政治学会報告者への旅費の補助について、今回、アメリカに在外研究中の〔岡山裕会員（慶應義塾大学）〕からの応募であったが、理事長と精査した結果、旅費として適切に使われることが確認され、応募者が一人であったため、承認することとした。今後は、応募要領に渡航旅費に限ると明記することが報告された。(ii) イギリス政治学会派遣報告者の公募に対し、今井貴子会員（成蹊大学）から応募があり、現在派遣手続きを進めていることが報告された。(iii) 韓国政治学会派遣報告者の公募に対し、二名の応募があったが、内一名が応募段階で

非会員であったことが報告された。審議の後、応募者は応募段階で会員であるべきことが確認された。(iv) 日本政治学会の会員でなくとも、協定を結んでいる海外の学会の会員で、所属する学会の認定を受けた研究者の日本政治学会での報告を認める方向で検討を進めていることが報告された。

## ⑭ 選挙管理委員会

橋原委員長より、選挙管理委員会経費と選挙管理費の支出の内訳につき報告が行われた（配付資料参照）。

## ⑮ 2010年度総会・研究大会会計報告

桑原2010年度開催校理事より、2010年度総会・研究大会会計報告書につき2010年度開催校（中京大学総合政策学部）から、補助金を含めた会計全体の構図について補足の報告が行われた（配布資料参照）。

## 6. 入退会承認について

以下、22名の各氏を新入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）。

### 一般会員（16名）

横地徳広、田中嘉彦、谷本春樹、池田丈佑、佐藤徹、李正吉、伏見岳人、古内洋平、杉之原真子、浜中新吾、谷本純一、太田仁樹、鈴木一敏、古地順一郎、西田奈保子、堀内慎一郎

### 学生会員（6名）

伊藤健介、江嶋竜也、大谷基道、山根千佳、権妍李、橋詰悦荘

前回理事会時の会員数1743名、この間の退会者は5名（うち申し出による退会3名、逝去による退会2名）であり、今回の入会承認者22名を加えた結果、現在会員数は1760名となった。

## 7. 事務局報告

事務局幹事より、①前期で終了する委員会の委員長にたいして、11月末日事務局必着で、経理報告書と領収書の提出のお願いがなされる。②

学会HP移行について、新URLが確定し (http://www.jpssa-web.org/)、すでに、各ページの作成も終了していること、あとは、現行のHPから新HPへの移行の作業を行うのみ (=現行HPの閉鎖作業) であるが、大会の論文受付と論文のダウンロードページの開設など、研究大会期間中に移行の混乱を招いてはいけなないので、論文のダウンロードページの閉鎖後転送設定を行って、移行完了となる予定であることが報告された。

## 8. 総会・次回理事会の開催について

杉田理事長より、①2011年10月9日の12時より、岡山大学文学部・法学部・経済学部講義棟26番教室において2011年度総会を開催することが報告された。②次回の2011年度第3回理事会は2011年10月9日12時30分より、岡山大学文学部・法学部・経済学部2号館法学部会議室において開催することが提案され、これが了承された。

## 2011年度日本政治学会第3回理事会議事録

日時：10月9日(日) 13時00分～13時30分

場所：岡山大学 文学部・法学部・経済学部2号館  
法学部会議室

第3回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 各種委員会報告について

#### ① 2012年書評委員会(2012-I号掲載分)

大西委員長より、10月8日に委員会が開催されたことが報告された。ついで、現在の1000字という字数設定では、制限が厳しすぎ、十分な書評をおこなうことが出来ないため、字数設定を緩和することが提案され、審議の後、年報全体の調整は編集委員長がおこなうこと、書評については各3000字とすることが承認された。

#### ② IPSAについて

田中愛治IPSA執行委員より、2012年度に任期が終了することから、2010年度日本政治学会第2回理事会において定められた手続〔IPSA執行委員候補者の選任は、理事長、国際交流委員長、常務理事、および現執行委員によって構成される選考委員会において行い、選考委員会はその結果を理事会に報告し、了承を受けるものとする(「2010年度日本政治学会第2回理事会議事録：6. IPSAについて」『日本政治学会 会報』No.60、2010年12月15日、14頁参照)〕に則ってIPSA執行委

員候補者を選出する手続を開始することが提案され、これを承認した。

### 2. 入退会承認について

以下、7名の各氏を新入会員として承認した(事務局受付順、敬称略)。

(一般会員7名)

池 炫週 直美、今井尚義、有馬晋作、米山忠寛、遠山隆淑、中村英俊、中尾知代

前回理事会時の会員数1760名、この間の退会者は0名であり、今回の入会承認者7名を加えた結果、現在会員数は1767名となった。

### 3. その他

#### ① 年報について

(i) 辻中2012-II編集委員長より、編集作業の効率化のために、作業全体についての工程予定表の必要性が提案される。

(ii) 越智2011-I編集委員長より、一つの号に掲載することの出来る公募論文の本数について規定がないため、多数の公募論文が査読を経て掲載可となった場合、総頁数が増え予算上も編集が困難となるため、掲載本数についてなんらかの方針を検討することが提案される。

以上の提案が、審議の後、今後の検討課題とされた。

## ② 英文雑誌について

英文雑誌は、まず一号刊行し、その後の刊行については、今後の決定事項であることが確認された。

## ③ 理事会出席簿について

理事会出席簿は、理事会会場における出席簿への各理事の自署により作成することが、確認された。

## ④ 次回理事会の開催について

杉田理事長より、次回の2011年度第4回理事会は2011年12月10日（土）14時00分より、法政大学市ヶ谷キャンパス現代法研究所会議室において開催することが提案され、これが了承された。

## 2011年度日本政治学会総会議事録

日時：2011年10月9日（日）12時00分～12時55分  
場所：岡山大学 文学部・法学部・経済学部講義棟 26番教室

### 1. 開会挨拶

谷聖美大会開催校担当理事より、2011年度総会の開会が宣言された。

### 2. 開催校挨拶

高橋文博社会文化科学研究科長より、総会・研究大会開催校を代表して挨拶が行われた。

### 3. 理事長挨拶

杉田敦理事長より、総会・研究大会開催校の岡山大学の関係各位、および2011年度企画委員各位にたいして謝辞が述べられた。

### 4. 2010年度決算・監査について

中野勝郎常務理事より、2011年度第1回理事会（2011年6月4日開催）で承認された2010年度決算（案）につき、会計ごとに報告が行われた。ついで川人貞史監事より、監査に関する報告が行われたのち、2010年度決算（案）が了承された（配付資料参照）。

### 5. 2011年度予算について

中野常務理事より、2011年度第1回理事会（2011年6月4日開催）で承認された2011年度予

算（案）につき、2010年度予算との異同を中心に説明が行われ、2011年度予算（案）が了承された（配付資料参照）。

### 6. 理事・次期理事・次期理事長の選出について

杉田理事長より、2011年10月8日に開催された第2回理事会において、鏑木政彦会員を開催校担当理事として選出したことが報告された（10参照）。

また第17回理事選挙の結果、以下の各氏が公選理事に選出されたことが報告された。飯島昇藏（早稲田大学）・池谷知明（拓殖大学）・大西裕（神戸大学）・小川有美（立教大学）・小川原正道（慶応大学）・押村高（青山学院大学）・荻部直（東京大学）・河野武司（慶応大学）・小西徳應（明治大学）・齋藤純一（早稲田大学）・酒井正文（平成国際大学）・信夫隆司（日本大学）・白鳥浩（法政大学）・城山英明（東京大学）・田中愛治（早稲田大学）・辻中豊（筑波大学）・中村孝文（武蔵野大学）・名取良太（関西大学）・西川伸一（明治大学）・西澤由隆（同志社大学）・真淵勝（京都大学）・吉野篤（日本大学）（配付資料参照）。次に2011年8月28日に開催された次期理事長候補者選考委員会において、次期公選理事の互選により真淵勝次期理事が理事長候補者に選出され、同日に開催された理事選考委員会において、以下の各氏が選考理事に選出されたことが報告された。遠藤乾（北海道大学）・遠藤誠治（成蹊大学）・大津留智恵子（関

西大学)・河村和徳(東北大学)・瀨藤厚(山口大学)・佐藤克廣(北海学園大学)・佐藤学(沖縄国際大学)・谷口尚子(東京工業大学)・戸田真紀子(京都女子大学)・中野勝郎(法政大学)・楢原真二(北九州大学)・羽場久美子(青山学院大学)・増田知子(名古屋大学)・三船毅(愛知学泉大学)・山田央子(青山学院大学)(配付資料参照)。ついで2011年10月8日12時より開催された第1回次期理事会において、真淵勝次期理事が次期理事長に選出されたことが報告された。

## 7. 監事の選出について

杉田理事長より、本年10月で任期が終了する川人貞史監事の後任に、西崎文子会員を選任することが提案され、審議の上、提案通り可決された。

## 8. 各種委員会報告

### ① 2011年度企画委員会

信夫隆司委員長より、研究大会開催校の岡山大学の関係各位、2011年度企画委員各位、交流委員各位にたいして謝辞が述べられたとともに、2011年度研究大会が、現在、順調に進行していることが報告された。

### ② 2012年度企画委員会

押村高委員長(中野常務理事代読)より、(i)以下の各氏を委員に選出したことが報告された。磯崎典世(学習院大学、アジア政治)・小川有美(立教大学、比較政治・ヨーロッパ政治)・押村高(委員長・青山学院大学、政治思想、国際関係)・金井利之(東京大学、行政学、自治行政)・空井護(北海道大学、政党政治、選挙政治)・中山俊宏(青山学院大学、国際政治、アメリカ政治)、奈良岡聰智(京都大学、日本政治史)・野口雅弘(立命館大学、政治理論、政治学方法論)、山田央子(青山学院大学、日本政治思想史)。以上に加えて開催校より1名が委員会に加わる予定。(ii)企画の立案については、基本的に2011年度の方式を踏襲する予定であることが報告された。(iii)2011年10月9日午前に第1回委員会が開催され、テーマ設定の公募について「エネルギー政策と政治」と「社会運動におけるメディアの役割」の二つを考えていることが報告された。

### ③ 年報2011-I 編集委員会

越智敏夫委員長より、当初予定どおり出版されたことが報告された。

### ④ 年報2011-II 編集委員会

品田裕委員長(中野常務理事代読)より、年報2011-II号は、「政権交代期の選挙区政治」と題して、この夏、無事に特集の原稿が揃ったこと、とくに最終局面で編集委員の大西会員と木鐸社の坂口氏のお世話になったこと、現在、査読(独立)や他の原稿と併せ、出版社で作業していることが報告された。

### ⑤ 年報2012-I 編集委員会

真淵勝委員長より、特集は「自民党と政権交代(仮)」と題して、8月合宿をおこない進行状況を確認したことが報告された。

### ⑥ 年報2012-II 編集委員会

辻中豊委員長より、特集は「日本の団体政治」と題して、来年3月を締め切りに公募論文を受けつけていること、8月に合宿をおこない進行状況、企画について議論したこと、着実に進行していることが報告された。

### ⑦ 年報2013-II 編集委員会

遠藤誠治委員長より、特集は「ポスト・クライシスの政治変動(仮)」と題して、委員を確定する作業をすすめていることが報告された。

### ⑧ 査読委員会

遠藤乾委員長より、以下の報告がなされた。(i)年報2011-I号について、査読委員会では、独立論文につき、13本の投稿があり、5本の掲載を決定した。同号につき、一度は掲載を許可した論文に二重投稿が判明したため、その決定を取り消した。(ii)2011-II号は、独立論文に3本の投稿があり、1本が掲載許可となった。報告とあわせて規定を守ったうえでの会員の積極的な投稿が要請された。

### ⑨ 2011年文献委員会(2011-II号掲載分)

河野武司委員長より、2010年度学界展望の原稿

を木鐸社に提出し、現在、予定どおり、出版社で初校を組んでいる段階であることが報告された。

⑩ 2012年文献委員会（2012-II号掲載分）

酒井正文委員長より、委員会の構成が理事会で承認されたことが報告された。

⑪ 2012年書評委員会（2012-I号掲載分）

大西裕委員長より、予定通り進行中であることが報告された。

⑫ 国際交流委員会

小川有美委員長より、国際交流委員会の活動につき概括的な説明が行われた。

⑬ 選挙管理委員会

榎原真二選挙管理委員長より、第17回理事選挙につき年5月23日に投票用紙を発送し、6月30日に投票を締め切り、7月9日に開票作業を行ったこと、投票率24.4%（有権者総数1,703）であったことが報告された。

9. IPSAについて

田中愛治IPSA執行委員より、2012年7月8日～12日にマドリッドで開催予定の次回IPSA世界大会への会員各位の積極的な参加が要請された。また2012年4月14日～15日に日本政治学会が招待するかたちでIPSA執行委員会を開催すること、執行委員会の開催と併せて、16日にIPSA国際シ

ンポジウムを日本政治学会および早稲田大学グローバルCOEの共催により開催することが報告された。

10. 2012年度総会・研究大会の開催について

杉田理事長より、2012年度総会・研究大会は2012年10月6日～7日の2日間、九州大学で開催することが報告された。鏑木政彦理理事から、準備状況について報告があった。

11. 事務局報告

事務局幹事より、学会HP移行について、新URLが確定し（<http://www.jpssa-web.org/>）、すでに、各ページの作成も終了していること、あとは、現行のHPから新HPへの移行の作業を行うのみ（＝現行HPの閉鎖作業）であるが、大会の論文受付と論文のダウンロードページの開設など、研究大会期間中に移行の混乱を招いてはいけないので、論文のダウンロードページの閉鎖後、転送設定を行って、移行完了となる予定であること、移行に当たって現行HP上（2012年3月まで）およびニューズレター上で新URLを公告することが報告された。

12. 閉会挨拶

谷開催校担当理事より総会参加者に対し謝辞が述べられたのち、2011年度総会の閉会が宣言された。

## 事務局より

### 学会ホームページアドレスの変更

11月より学会ホームページが以下のアドレスに変わりました。

<http://www.jpasa-web.org/>

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納入されていない方が若干おられます。何とぞ速やかにご協力のほど、お願いいたします。一般会員は7,500円、学生会員は5,000円です。また、シニア会員（会費5,000円）および終身会員（一時金30,000円又は20,000円）の制度がございますので、ぜひご利用下さい。郵便振替により、以下の口座番号、加入者名あてに納入をお願いいたします。

口座番号：00120-2-500664

加入者名：日本政治学会

なお、2011年度末までに2011年度および2010年度の会費を納入されなかった会員の方は、「日本政治学会規約」第8条に基づき、自動的に退会扱いとなりますので、ご注意ください。会費の納入状況につきましてご不明な点は、ACNet までお問い合わせ下さい。

### 本号の目次

1. 危機の中の政治学…………… 1
2. 2012年度研究大会企画公募のお知らせ…………… 2
3. 「分野別研究会」公募のお知らせ …… 3
4. 論文公募のお知らせ…………… 4
5. 研究業績自己申告のお願い…………… 6
6. 理事選挙の結果等について…………… 7
7. 理事会議事録・総会議事録…………… 8
8. 事務局より…………… 15

### 訃報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

早川 弘道氏 早稲田大学教授 ロシア（ソ連）・東欧政治史 法制・憲法論 1947年生

増島 宏氏 法政大学名誉教授 政治史（イギリス・日本）日本現代政治論 1924年生

2011年12月15日発行

発行 日本政治学会事務局

中野 勝 郎

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1  
法政大学法学部資料室内

FAX：03-3262-7822

E-mail：jpsa@ml.hosei.ac.jp

<http://www.jpasa-web.org/>

特定非営利活動法人 CANPAN センター ACNet 事務局  
日本政治学会担当（住所変更・会費）

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2  
日本財団ビル

TEL：03-6229-5104

FAX：03-6229-5116

E-mail：ac001-jpsa@canpan.org

印刷 よしみ工産(株)